

総会・講演会を開催

はじめに

今年度も残すところ2ヶ月となり、技術士会北海道支部会員の皆様におかれましては、大変忙しくお過ごしのことと思います。

今回は、本年度に開催した第59回と第60回の総会・講演会について報告します。

1. 第59回総会

日 時：平成21年6月19日 午後6時

場 所：釧路プリンスホテル

出席者：39名（技術士26名、技術士補12名）

第59回総会・講演会（平成21年度）を釧路において開催しました。

星山会長の挨拶では、寒地土木研究所が主催し、当会が共催して平成21年2月に開催された『第2回技術者交流フォーラム in 釧路』について紹介しました。

星山会長の挨拶に続き、今回の総会に出席していただいた日本技術士会北海道支部副支部長の大島俊之技術士から挨拶をいただきました。



大島副支部長

大島副支部長は挨拶の中で、役所の発注方式が総

合評価方式などに移行してきており、技術士の技術提案能力が強く求められてきている現状や、北見工業大学と札幌の会場をテレビ会議システムで結んで開催している技術士養成講座について紹介しました。

2. 講演会

第59回総会にあわせ、CPD（継続教育）として講演会を行いました。

演題：水産土木技術の紹介～藻場と産卵礁の造成～

講師：北原 繁志 技術士

（水産／建設／総合技術監理部門）

講師の北原氏は、現在、根室市で勤務されており、業務の関係から水産土木について研究し、2005年（平成17年）に学位（水産科学）を北大にて取得されておられます。今回は、我々にはあまり馴染みのない水産土木技術について講演をしていただきました。

講演要旨

水産土木技術は、沿岸構造物の持つ魚礁、産卵、藻場創出などのそれぞれの機能を、より強化する技術である。



北原講師

藻場の造成には太陽光、流れ、水温及び栄養塩が必要であり、これまで豊だった北海道近海でも貧栄養による磯焼けが発生し、コンブの生産に大きな影響が出ている。磯焼けは海水温上昇により活動が活発になったウニの食害が大きな原因であり、対策として流速によるウニの行動制限が可能である。

ハタハタの産卵磯は、天然海藻の持つ機能の分析と強化が重要である。

ヤリイカの産卵磯造成は、光量や流れに対する検討が重要である。

3. 平成20年度2次試験合格者

情報交換会のなかで、平成20年度2次試験に合格され晴れて技術士となられた以下の3名の方に自己紹介していただきました。

平成20年度2次試験合格者

安藤由里子（㈱北開水工コンサルタント）

佐々木優一（㈱北開水工コンサルタント）

高畑 勝行（大開技術コンサルタント㈱）

以上、敬称略

4. 第60回総会

日時：平成21年12月11日 午後6時

場所：北海道ホテル

出席者：26名（技術士18名、技術士補8名）

★第60回総会・講演会（平成21年度）を帯広において開催しました。

星山会長から、帯広で開催される以下の2件の講演会について紹介がありました。

雪と氷のサイエンス：(社)日本雪氷学会主催

第6回技術者交流フォーラム in 帯広

：寒地土木研究所主催、道東技術士会共催

また、来年度からは総会に合わせて、現場見学会なども開催したいとの意向を述べました。

5. 講演会

今回の総会においても、恒例の講演会を行いました。

演題：凍土を求めて

講師：帯広畜産大学 教授 武田 一夫 技術士

講師の武田氏は、地域環境学研究部門 地域環境工学分野の教授で、雪氷学、地盤工学、地球物理学を専門分野としており、今回は、モンゴル永久凍土地帯における環境変動などについて講演をしていただきました。



武田講師

講演要旨

道路の凍上対策を考える上で、凍上に深く関係するアイスレンズのメカニズムを調べることは大変重要で、国内外の多くの研究者が長い期間にわたって研究しているが、未解決の部分がまだ残っている。

凍上は道路や法面に被害を与えるが、凍土は不透水となることからトンネル工事などで地盤凍結工法として利用されてきている。

1970年に富士山頂上で永久凍土が発見され、北海道でも然別や糠平などで確認されている。

モンゴル北部では多発する森林火災の影響で永久凍土が融解し地表面乾燥により森林の自然再生が困難になっている。

おわりに

情報交換会では、それぞれ近況について報告し合うなど、和やかな雰囲気が進みました。

会の最後は、元副会長の佐藤豊藏技術士に挨拶をお願いし閉会しました。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士会の報告とさせていただきます。

（文責：道東技術士会幹事 上野 博司）